

令和３年度第１回木更津市史編集委員会 会議録

- １．会 議 名 令和３年度第１回木更津市史編集委員会
- ２．開催日時 令和３年４月２７日（金）午後１５時００分～１６時１０分まで
- ３．開催場所 木更津市役所朝日庁舎 会議室 F
- ４．出 席 者 市史編集委員会委員 出席８名
杉山林継委員、成田篤彦委員、川戸貴史委員、實形裕介委員、
島立理子委員、谷畑美帆委員、岩埜伸二委員、篠田貞明委員
教育委員会事務局６名
廣部昌弘教育長、秋元淳教育部長、平野義視教育部次長、小高幸男文化課長、
青柳英明係長、矢野茜事務員
- ５．議題及び公開又は非公開の別
議題 木更津市史編さん事業の再検証について（公開）
- ６．傍聴人 なし

事務局（小高文化課長）

それでは準備が整いましたので、ただ今から今年度第１回木更津市史編集委員会を開会いたします。

進行は小高が務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

本日の編集委員会は、川戸委員、島立委員、谷畑委員、篠田委員は ZOOM でのご出席となります。池田委員・石和田委員はご欠席です。

会議につきましては、附属機関設置条例第６条第２項の規定により、成立しております。

また、会議は公開で行いますのでご了承ください。

はじめに、杉山委員長。ごあいさつをお願いいたします。

（杉山委員長） 杉山でございます。コロナにより色々と支障がでてきていますので、今日は軌道修正しなければいけないところは、軌道修正していきたいと思っております。

市の計画書もあるわけですから、全面的に変えるのではなく、どのようにしたら進行させられるかということを考えながら進めていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

事務局（小高文化課長）

ありがとうございました。

続きまして、廣部教育長より、ごあいさつ申し上げます。

（廣部教育長） こんにちは。４月１日付けで教育長に就任いたしました。廣部と申し

ます。よろしくお願いいたします。委員の皆様には、これより本市教育行政にご尽力賜りましてありがとうございます。

昨年度は、杉山委員長からもありましたが、新型コロナウイルス感染症の影響で一度もこの会が開かれていないと伺っております。市史編さんの視点から協議することも重要ですし、調査・研究として人と会うことも重要だと考えると無理もないことだと思います。

教育委員事務局も令和3年度を迎えまして、私をはじめ、教育部長も教育部次長も一新しましたので改めて市史編集委員会を開会して方向性の協議をして参りたいと思います。

新たな木更津市史を編さんするために、平成27年3月に基本方針等が定められ6年かけて市史編さんを行っております。

私自身も富来田地区、根岸という所の出身でございまして、木更津市史については非常に興味を持っており、進捗状況を拝見しましても、下郡地区の祭礼という言葉も出てきていますので大変楽しみな取り組みと思っております。

ぜひ、木更津市史の編さんという大変大きな仕事となりまして、木更津の文化の向上にも繋がるものだ確信しているので、委員の皆様のお力をお借りしながらできるだけ良いものに仕上げてもらいたいと思いますので、ご協力とご指導のほうをよろしくお願いいたします。
以上です。

事務局（小高文化課長）

続きまして、4月1日の定期人事異動により教育委員会におきましても異動がございましたので、職員の紹介をさせていただきます。

職員自己紹介

事務局（小高文化課長）

本日が、初顔合わせとなりますので、編集委員会委員の皆様からも出席者名簿に従い、自己紹介をお願いいたします。

各委員自己紹介

事務局（小高文化課長）

ありがとうございました。

それでは会議に入ります。会議の前に、資料確認をさせていただきます。

事務局（青柳係長）

令和3年度第1回木更津市史編集委員会に沿って会議を進めさせていただきます。次に議題、報告事項、委員の名簿が付いております。その後に各部会の報告事項として、資料がございますのでご確認ください。

よろしくお願いいたします。

事務局（小高文化課長）

それでは、議事に入ります。

議長は委員長が務めることとなっておりますので、これからの議事進行を杉山委員長にお願いいたします。

杉山委員長

議長を務めさせていただきます。私を含めて委員の任期は6月30日までとなっておりますので、今日が、最後の委員会になると思いますがよろしくお願いいたします。

昨年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で、編集委員会の運営にも影響がでており、久しぶりの委員会となりました。本日の議題の提出の経緯を含め、事務局の説明をお願いいたします。

事務局（小高文化課長）

それでは説明をさせていただきます。資料の1ページ目をお開きください。昨年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で文化課主催のイベントは、ほとんど中止となりました。市史編さん事業についても、市史編集部会の方々による調査を大幅に制限しました。参考に各部会長からの進捗状況報告を添付しておりますのでご参照ください。

このほか、当初、昨年度と今年度「民俗調査報告書」2冊の発行を予定しておりましたが、すべて見送りました。そして、民俗部会からは、「木更津市史基本編集基本構想及び基本方針」に示された刊行計画について、再度、見直してほしいと要望がありました。

島立委員が民俗部会にも所属しておりますので、要望の経緯及び内容に関する説明をお願いします。

島立委員

進捗報告

事務局（小高文化課長）

こちらから補足で説明をさせていただきます。木更津市史編さん民俗部会関係の今後の活動と刊行計画変更についてということで、昨年度、民俗部会の会長、部会の委員でご協議をされたということです。

調査としましては、やはり対面調査、聞き取り調査がメインとなっておりますが、昨年度コロナウイルス感染症のため、ほぼ調査ができていない状態で全く作業ができなかったということです。

こちらの方で資料を用意いたしました。資料の1ページ目をご覧くださいと思うのですが、民俗調査報告書が1～9と書かれていますけれど

も、当初は民俗調査報告書を9冊出す予定であったのが、この状況で9冊出すのは難しいと。できれば2冊ないし3冊に減らして刊行を進めたいというご要望でした。

また、刊行年度についても2021年度から随時刊行と考えていましたが、毎年刊行することはできないということと、2冊ないし3冊を出すにあたって、今全く調査ができない状況にあたって、いつ頃かということも示すことができない。現段階の刊行計画については、2冊ないし3冊を出すことですが、実際の刊行年度についてはある程度コロナウイルス感染症が収束した後、部会の方で協議をして来年度に出せるかということをお示ししたいということでございます。それについてご協議いただければと思います。

説明は以上となります。議長、お願いいたします。

杉山委員長

説明は終わったのですが、委員の先生方、民俗からの問題提起ですが、どのようにお考えでしょうか。

ご意見を一つ述べていただきたいと思います。

まず、問題点として民俗調査報告書9冊は厳しいということが1点。民俗調査報告書を3冊程度に減じて出す。刊行予定についても、9冊の表を見ていただければ分かりますが、2021年度から2030年度にかけて9冊を刊行する。地区別の調査報告書になっていたということですが、それをまとめて3冊くらいに減らして出したいということです。今のところ計画が立てられないというようです。

私から事務局にお聞きしたいのですが、その場合に出版費の手当、最初の計画を立てた時には、一番下に刊行物数ということで、バランスをある程度とって各年の2、3冊という形で計画を立てていますが、その辺りの出版費、刊行費の問題は民俗の話ですと、ある程度まとめるということですから、厚さが増えることになると思います。もし9冊を3冊とすると、少なくとも3分の1になる。しかし量は単純に考えて3倍になるということですが、予算上の問題は何とか解決できるのでしょうか。

事務局の考え方を教えていただきたいのですが。

事務局（小高文化課長）

委員長のおっしゃるとおりです。ただ、9地区をまとめて合算するだけで、ボリュームが変わらないということであれば、当然1冊のページ数が増える関係上、1ページ単価は変わらないのではないかと考えます。

取りまとめて2冊ないし3冊を出すにあたって、民俗部会がどのようなページの割り振りなのか、それによっても変わってくるのですが、基本的には同じようなボリュームでまとまって出せるのであれば、多少の諸経費

は抑えられるくらいにはなると思います。

今のところページ単価によっても違うとは思いますが、刊行物については、CD などのデジタル化して公開しますので、そういった意味では経費が削減できるのではないかと思います。

杉山委員長
實形委員

どうでしょうか、委員の先生方。何かありますか。

民俗部会の方からありましたが、全く調査ができていないという状況だと成果がないということなので、刊行計画自体全く見通しが立たないので、コロナの収束が一番になってしまうと思う。

特に民俗編において年中行事は、一年の中でも時期が限定される。また次の年となってしまうので、調査の見通しを立てていって、全部のものが無理になるので、民俗部会のほうである程度見通しを立てる。調査を進めていってその蓄積をもとに刊行の予定を立てていくことしか出来ない。以上です。

杉山委員長

ありがとうございます。島立委員、聞こえますか。

民俗の問題として、3冊くらいにまとめるということで、皆さんご理解いただけているようですが、3冊を年次で間隔をあけて出版するようなイメージに持っていけそうでしょうか。

島立委員

コロナの収束もそうですが、出来るようになり次第進めていきたい。3冊を出していくということで。

杉山委員長

コロナの見通しは何とも言いようがないのですが、個人的に今年は無理だと考えている。それにしても来年まで引っ張るかどうか。ある程度、コロナについて先が見えてきた段階で、どのように計画を立てられるか。立て直しを出来るか、予定がどうなるか、来年までコロナが引っ張ったらどのように刊行計画を変更するのか。その辺りは何かありますか。

島立委員

コロナの中で調査が進まない。コロナの状況を見ながら調査を進めていきたい。

杉山委員長

少なくとも9冊は無理だということを、ご了解いただけるでしょうか。問題は、ボリューム。9冊が3冊になると厚さとしては3倍になる。その辺は、事務局に何とか努力をしてもらいたい。

実際に2冊としたら、その2冊を同時に出すことはないでしょう。少しはずれてくると思うのですが、それに合わせて今度は資金計画を立てていただくしかない。問題はいつ頃に資金計画が立てられるのか。

少なくとも毎年の発刊計画は中止、微妙である。修正するということがやっていくしかない。

岩埜委員

発刊は無理じゃないですか。この後に、どのように調査できるというのを、決めていただいて、発刊計画を見直したものを再度提案して部会がで

きる範囲で行う。

杉山委員長 岩埜委員ありがとうございました。事務局。

事務局（小高文化課長）

おっしゃる通りで、計画をそのままにしておくことはできません。民俗部会のほうで、2冊または3冊という話が出ている。刊行年度は決められないが、今年度調査ができるか民俗部会と協議を進めていきたいと思います。

杉山委員長 ここで検討できる範囲は、9冊をまとめることについては了解するしかないだろう。内容のまとめ方と刊行の予定表については事務局と民俗で協議していくしかない。

どうでしょうか、このことについて何か意見はありますか。島立委員。

島立委員 お話いただいたとおり、刊行計画等について話し合っていかなければならないと思っています。

杉山委員長 ありがとうございます。本が出来なくても困るので、発表の仕方を民俗の方で。例えば『木更津市史研究』で部分的に出していられるものがあれば、出していきながら、まとめていってもらうような方法を考えていくしかない。

コロナの予定については何とも言えないが、計画について無視することはできない。とりあえず民俗についてはこういうことでよろしいでしょうか。

他の部会からのご意見はありますか。2022年に『史料編』の古代編が刊行の予定となっています。来年度ですから、この辺りは大丈夫でしょうか。もう一つは自然編の『資料編』が2023年、再来年度のことは何か委員の先生方で気になることはありますか。成田委員は再来年度ですが、いかがでしょうか。

成田委員 4月23日に、自然部会の打合せを行ったのですが、2023年3月発刊なんです。これはCD版（デジタル版）に向けて計画を立てますか。

今年の12月末に、査読用の原稿、部会での変更・締切ということで進めています。いくつか仮の原稿は出来ていますので、デジタル版になって。

私はドロップボックスに原稿を入れておいて、大きな容量のハードディスクに移しかえて。実際どれだけ原稿が集まっているか、その後で校閲すべき内容など色々ありますが、2023年の3月刊行に向けての予定を作成して努力をしているということです。

杉山委員長 ありがとうございます。

力強いといえますか、良い状態でのお話をいただきましたが、刊行年度は再来年度です。

古代編のほうは、事務局は何か聞いていますか。

事務局（小高文化課長）

古代部会の方は、まだ聞いておりません。古代部会は定期的に編集部会を開催しておられるようなので、その段階での調査の遅れ等は伺っていないので、概ね計画通りに進めているのではないかと考えております。

民俗部会のこともありましたので、今年度中に各部会、古代部会にも進捗状況を確認して、刊行計画通りに進められるのかどうか詰めたいと思います。

杉山委員長

普段の調査もコロナの中で計画通りにいかないと大変ですが、特に刊行物は目に見えるので、予算のこともありますので、遅れがあるようならば計画を変更しなければならない。ぜひ事務局でも、各部会の状況を把握していただければと思います。

今日の段階で事務局、決めておかなければならないことはありますか。

事務局（小高文化課長）

民俗部会について、今年度中に見直しをするということで、ご確認をさせていただければ、今日の会議は進めさせていただいて、他の部会については、今年度中にそれぞれ集まっていって確認をしたいと思います。

状況によっては、編集委員会にご出席いただく方法も取りたい。ある程度、今年度には計画のほうを固めていきたいと思います。見直しが必要なことについても、確認の上固めていきたいと思います。

杉山委員長

民俗のことだけはまず大きな変更があるものですから、確認をしていただきたい。ここには『木更津市史研究』の執筆投稿のことも書かれていますので、そのような方向で。1冊目は木更津についての民俗を予定している。そして2023年には刊行したいとあります。

委員の先生方がでしょうか。これについては認めていただくということでよろしいでしょうか。

民俗について、島立委員。皆さんに和田さんの経過を見ていただいたので、裏側に実際に3月には1冊目が出るような準備をしている。1冊目に木更津地区の民俗に他地区の調査成果を合わせて、2023年度に刊行できるように調整したいと考えている。コロナのこともありますが、今日の委員会はこのような認めるということではいかかでしょうか。

島立委員

そうして頂けるとありがたいところです。よろしく願いいたします。

杉山委員長

委員の先生方からも了解を得たので、9冊は3冊くらいすることと、最初の発刊計画は2023年度頃。

事務局、予算措置の方は何とかかなりそうですか。2023年度はその他に、自然編の『資料編』が1冊と、その前に古代編の『史料編』がありま

すが、2023年度は2冊～3冊、古代編が来年度で上手くいけば良いですが。それを含めて23年度の出版が増える可能性があるということです。委員会としては要望。予算措置までは出来ませんので、要望という形でよろしいでしょうか。事務局の方はよろしいでしょうか。

事務局（小高文化課長）

予算措置につきましては、年度直前の要求になってくるので、こちらで刊行計画を固めた上での要求となります。

杉山委員長 事務局に何とか努力をしてもらって調整していくことでよろしいでしょうか。教育長いかがですか。

廣部教育長 致し方ないと思いますので、直前の予算措置だと無理がありますが、ある程度は融通が利くのではないかと思います。

杉山委員長 コロナは予想しなかったものがありますので、民俗は市史研究等には投稿してくれることもありますので、そのような方向で少しずつ発表してもらいながら、先延ばしするという形になるかと思います。そういうことでいきたいと思います。

他の事で、何か委員の先生方がありますか。

實形委員 近世についても進捗報告を見ていただきたいのですが、昨年度においては、部会の打合せを開催することができていない。調査についても、ここにあげた1枚ですから、民俗と同じような感じです。調査がかなり制限された状態です。かなり遅れていることを認識していただいて、小関部会長に見通しをお聞きしていただきたいと思います。

近世については、村の数が多いので、それを1つ1つまた調査していく、古文書を発掘していくことは、手間になりますので、その辺りをどう進めるか見直し・変更していくということになると思います。近世については以上です。

もう一つ大事なことがございまして、近現代に関係することなのですが、今年、令和3年、2021年は木更津県が成立して150年です。

明治4年の11月ですから、1871年の12月。そこで第一次の千葉県下では3県ありましたので、上総安房の県を廃止して木更津県として統合していますので、コロナで大変ですが、何か出来るとしたら編さんだより辺りで近現代の方が担当で出していただければと。

何か大きなイベントも出来そうにないので、最低限は編さんだよりで紹介する。短いですが、千葉県が成立するまでですから、明治6年6月。ただ木更津としては、石碑がありますので木更津としては大きな出来事となります。タイミングが良いので取り上げていただければと思います。

杉山委員長 ありがとうございます。實形委員から出ましたけれども、ちょうど15

0年ということで、石碑の写真でも拓本でも入れながら誰かに書いてもらうということで。編さんだよりまたは市史研究でも良いので、事務局でバックアップしていただければと思います。

實形委員 千葉県文書館に、文書がありますので。

杉山委員長 資料は全て文書館にありますか。

實方委員 文書館にあります。

杉山委員長 他の委員の先生方、いかがでしょうか。この際言うておくことはありますか。川戸委員、何かありますか。

川戸委員 大丈夫です。

杉山委員長 他の委員の方はよろしいでしょうか。

谷畑委員、何か一言ありませんか。

事務局（小高文化課長）

谷畑委員はチャットだけかもしれないです。口頭での回答は出来ません。

杉山委員長 そうですか。篠田委員何かありますか。

篠田委員 特にございません。

杉山委員長 他になれば今日のところは閉会させていただきます。事務局、よろしいでしょうか。

事務局（小高文化課長）

木更津市史編集部会には、調査を行ってもらっているところですが、以前委員長から編集部会と編集委員会の名前が紛らわしいというお話をいただいています。編集委員会については、本市の条例で定められていますので、変更が難しいですが、編集部会の名称については、要綱で定めております。部会の方々も編集委員と編集部会委員の言い回しも実際に難しいということですので、要綱を見直しながら編さん部会と変更できればと思います。そちらでご承知いただければ、見直しを今年度進めたいと思います。以上です。

杉山委員長 少し分かりやすくなった。少しずつ分かりやすくしていくようなので、それでよろしいですね。

それでは、本日はお忙しい中お集まりいただきありがとうございました。後は事務局にお渡しします。

事務局（小高文化課長）

委員長ありがとうございました。

以上を持ちまして、第1回木更津編集委員会を終了いたします。

報告事項につきましては、資料の2ページに記載しております通り、昨年度刊行物といたしまして、木更津市史編さんだより第5号並びに号外を

発行しています。また、木更津市史研究第4号を発行しております。また、公開講座等については、コロナウイルスの関係で中止をしております。

最後になりますが、以上で本日の編集委員会については終了させていただきます。次回については、編集委員会は委員の皆様の任期が本年6月30日をもちまして終了いたしますので、7月以降を予定したいと思います。

編集委員会に先立ちまして、辞令交付式を行いますので日程が決まり次第お知らせいたします。

本日はありがとうございました。

令和3年4月27日

議事録署名人 木更津市史編集委員会

委員長 杉山 林 継